緩和ケアのよくある誤解

がんと診断された
その日から活用できます。

「ターミナルケア」という言葉があります。「ターミナルケア」は終末期のがんの患者さまの身体的・精神的な苦痛を取り除くケアで、このようなケアを行う施設を「ホスピス」といいます。
「緩和ケア」は、がんの患者さまの治療と並行して、がんの治療のはじまりから最期のときまで、患者さまの生活そのものをサポートします。

緩和ケア相談 相談料：無料	「入院はまだ先だけど、どんな施設か見てみたい」 「緩和ケア活用の方針を相談したい」など、 患者さまの“気になること”を何でもご相談いただけます。

緩和ケアは、
治療との併用が可能です。

がんの治療中に、痛みや食欲低下などのつらい症状が出てくることがあります。緩和ケアでは、治療中の「つらさ」を緩和することで、治療への気力を回復し、日常生活を過ごしやすくするサポートをします。
休薬中（抗がん剤治療の合間）の体調コントロールにも、当院の緩和ケアをご活用いただけます。

緩和ケア外来	がんやがんの治療による「つらさ」の緩和を目的とした診療を行います。外来での緩和ケアを活用しながら、自宅を拠点とした生活を続けていただけます。

生活の質を保つのに
短期入院が役立ちます。

当院は、系列の桜十字熊本東病院の在宅診療と連携し、自宅療養をサポートしています。体調管理入院や、ご家族の負担軽減のレスパイト入院といった短期入院も受け入れており、体調が悪くなってきたら入院し、痛みや症状が落ち着き、食欲が戻ったらまたご自宅拠点のもとの生活に戻られる患者さまも多くいらっしゃいます。
※レスパイト入院…ご家族の息抜きや数日に渡る不在時に短期入院すること

桜十字熊本東病院 在宅診療との連携	桜十字熊本東病院で在宅診療を担当している菅村医師と連携しているから、自宅療養への切り替えもスムーズです。 菅村 公一 医師

当院では、予後を見据えた
輸血や手術も行います。

日常生活を送りにくくするさまざまな原因に対処します。
例えば、輸血をすれば今より元気に動ける。
例えば、腹水や胸水を抜けば楽になる。
そういった方には、ご希望を伺い、予後を見据えた処置で患者さまをサポートします。

輸血や手術が 可能な理由	当院の緩和ケア担当医である松田正和名誉院長は、外科の専門医。両方の視点から患者さまを診ることのできる医師の存在が、当院での処置を可能にしています。 松田 正和 医師

緩和ケアは、闘病中の「自分らしさ」をささえるケア。

がんの「つらさ」をコントロールし、自分らしく過ごすお手伝いをします。
早期から活用いただくことで、患者さまの「つらさ」の負担軽減につとめます。

桜十字病院
〒861-4173
熊本市南区御幸木部１丁目１番１号
www.sakurajyuji.or.jp